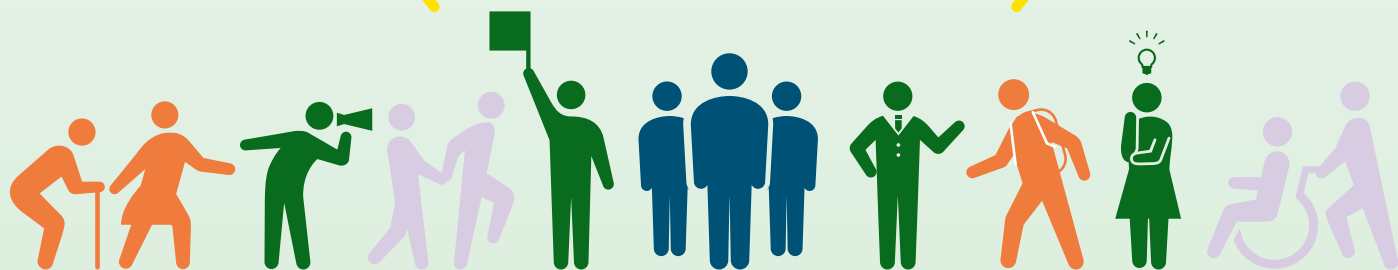


女性や若い力 歓迎!



令和4年度



# みえ防災塾

## 受講生募集



基礎コース ■ みえ防災コーディネーター育成講座

応用コース ■ さきもり応用コース





## みえの防災を担う人達へ。

### みえ防災・減災センター長からのメッセージ



三重県・三重大学  
みえ防災・減災センター長  
三重大学  
理事（研究・社会連携担当）・副学長  
緒方 正人

「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」は、平成26年4月に全国で初めて都道府県（三重県）と国立大学法人（三重大学）の協働によって設置した防災センターであり、三重県地域の防災・減災における人材育成・活用、地域・企業支援、情報収集・啓発、調査・研究などの取組みを積極的に行っています。その中で「みえ防災塾」は、地震や風水害などの自然災害に備えるため、自然科学、人文社会科学など多方面から、防災・減災に対する計画やマネジメントについて習得し、地域の防災・減災活動に対して活躍できる人材の育成を目指しています。修了生の多くは、「みえ防災人材バンク」に登録するとともに、「みえ防災コーディネーター連絡会」や「三重さきもり倶楽部」等を通じて三重県地域の防災・減災活動に貢献しています。また、本塾のカリキュラムは、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的な「職業実践力育成プログラム」（BPプログラム）として文部科学大臣の認定を受けています。

南海トラフ地震が危惧される中、毎年のように各地で大きな自然災害が発生し、地域での防災・減災活動の必要性が増してきています。「みえ防災塾」で学び、三重県地域の防災・減災活動に貢献できる防災人材として活躍していただくことを期待しています。

### 塾長からのメッセージ



三重大学工学研究科 教授  
地域圏防災・減災研究センター  
副センター長  
みえ防災塾 塾長  
浅野 聡

三重県は、歴史、文化、自然に恵まれた暮らしやすい地域ですが、その一方で、自然災害が多い地域です。安心して住み続けられる地域にするためには、防災・減災対策を推進することが求められますが、そのためには、自然災害の怖さを知ることも大切です。

皆さんの自然災害の体験は、どのようなものでしょうか。私が初めて巨大災害の現場を経験したのは、阪神・淡路大震災です。神戸市内のある街区では、見渡す限り殆どの建物が倒壊と火災で全壊し、まち全体が焦げ付いた二オイに覆われており、そのショッキングな風景は今でも忘れることができません。この時の体験が、私が防災まちづくりに取り組む大きな契機となっています。

みえ防災塾は、多くの修了生を輩出しており、修了生は県内各地で活躍しています。私たちと一緒に、三重県における防災・減災活動の普及と推進に取り組みませんか。

# みえ防災塾とは

## このような人を育てます

みえ防災塾の「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」では「みえ防災コーディネーター」として防災・減災活動に関して、自然科学分野や人文社会科学分野の知識を持ち、平常時は地域や企業などで自主的に防災啓発活動などを行い、災害時は公的な組織と協働して、復旧・復興活動への支援を担う地域防災・減災活動に貢献できる人材を育成します。

「応用コース さきもり応用コース」では「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」の人材育成の目標に加えて、「三重のさきもり」として、先進的・実践的な防災・減災のための計画立案とそのマネジメントを行う能力を持つ地域防災・減災リーダーを養います。特に、演習や実習における少人数教育、対話を重視した教育を通して、現場で活躍するための応用力や実践力を養います。

両コースの修了生は、「みえ防災人材バンク」に登録することで、地域の防災・減災に関する人的ネットワークを築くことができます。

## このような人を求めます

- ①防災・減災活動における問題解決の実践に情熱を持ち、三重県地域に貢献しようという気概を持った人
- ②自然、社会、文化、人間に対して幅広い関心を持ち、それらの基礎学力を持った人
- ③防災・減災活動を理解するために必要な自然科学、人文社会科学に興味を持ち、それらを応用する能力と自主的に学ぶ意欲を持った人
- ④防災・減災活動に対する旺盛な好奇心を持ち、真摯に問題を探求し続ける姿勢を持った人

## 地域で活躍していただきます

### 防災人材の活用促進〈みえ防災人材バンク〉

みえ防災・減災センターでは、みえ防災コーディネーターやみえ防災塾修了生に登録いただく「みえ防災人材バンク」を設け、防災人材の情報を集約し、市町・企業・地域等からの要請に応じて適切な人材を紹介することで、防災人材の活用を促進しています。



講義・演習の風景（ファシリテーション演習）



修了生の活動例 防災訓練での啓発活動

### 修了生による連携した防災活動

修了生が互いに情報交換を行うことにより、知識・能力のさらなる向上を図るとともに、連携・協力して三重県地域の防災力を高めることを目的に、学校教育現場への出前授業や地域での防災講座への講師派遣・応援、勉強会、情報共有など様々な活動に取り組んでいます。



ジャパンレジリエンス・アワード

2015

2015年ジャパン・レジリエンス・アワード2015にて、三重大学が三重県、市町、企業、県民と協働して進めてきた「美し国おこし・三重さきもり塾」と「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」による防災人材育成・実践プロジェクトを応募したところ、全国約200件の応募の中から大変に高い評価を受けて「金賞（教育機関部門）」を受賞することができました。

# みえ防災塾 2つのコース

## ■基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座

「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」を修了すると「みえ防災コーディネーター」として認定されます。カリキュラムは、2つの科目（みえ防災コーディネーター育成講座の24講座）で構成され、定められた修了要件に従って履修します。

開講日（予定）	令和4年度 日曜日 10:30～16:30 【全10回】
---------	------------------------------

※希望者は他の科目をスキルアップ研修として受講可能：要申請

### ■基礎コース 入願と入学までのスケジュール

■障害等のある入塾志願者との事前相談	令和4年3月22日（火）まで
■申込期間	令和4年3月27日（日）～4月15日（金）
■受講決定	令和4年4月下旬
■受講手続き	令和4年6月5日（日）入学受付時に提出

入学	■受講期間	1年
▼	■定員	50名
2科目の履修	■検定料	なし
▼	■申込方法	定員に達した場合は、申込期間であっても締切ります。
認定判定	■学費	受講料無料（別途3000円自己負担：資料代、保険代）
▼	■認定	みえ防災コーディネーター認定は対象の24講座のうち18講座以上を受講すること。（みえ防災コーディネーター認定者は、みえ防災人材バンクに登録します）
「みえ防災コーディネーター」認定	■修了証書	みえ防災コーディネーターに認定された方には修了証書を交付します。
▼	■受講対象	①地域の防災活動経験者または企業などの防災担当者等 ②地域の防災活動に積極的に参画する意欲のある方で、三重県在住・在勤・在学中全開催日（18講座以上）受講が可能な方 ※みえ防災コーディネーターとしてすでに認定されている方は受講できません。
修了証書交付	■受講申込	下記WEBフォームまたはQRコードからお申し込みください。 <a href="https://forms.gle/5S3hsPSRmvMQCcia7">https://forms.gle/5S3hsPSRmvMQCcia7</a>
希望者は、次年度以降 さきもり応用コースへ ステップアップ		お問い合わせ／TEL059-231-9952 E-mail：center@dimo.mie-u.ac.jp



## みえ防災塾 各コース共通

日程（予定）	入学式	令和4年 6月 5日（日）
	みえ防災コーディネーター認定式	令和4年 10月 23日（日）
	修了式	令和5年 3月 18日（土）
入学の対象とする人物像	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三重県民の方（自主防災組織、自治会のリーダーなど）</li> <li>●県内の企業に勤務する人（災害対策や事業継続計画立案担当者など）</li> <li>●県内の公務員（災害対策や防災の施策立案担当者、教員など）</li> <li>●津市民防災大学、四日市市防災大学、伊勢市防災大学などの修了者</li> </ul>	

- ◆「みえ防災コーディネーター」として認定された方は「みえ防災人材バンク」に登録することを必須とし、県内関係市町等へ登録者の名簿の提供を承諾していただきます。
- ◆令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、対面授業とオンライン授業を併用したカリキュラムになる予定です。オンライン授業では主にWeb会議ツール「Zoom」を使用しますので、インターネットに接続できる環境が必要です。また、インターネット接続に係る通信料は自己負担となります。
- ◆これまで基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座修了者については、（特非）日本防災士機構が実施する防災士資格取得試験の受験資格が得られましたが、新型コロナウイルス感染拡大状況等により対面を予定していた授業がオンライン授業に切替わった場合など、（特非）日本防災士機構の規定を満たさなくなった場合は受験資格が得られない場合があります。  
※なお、その場合、防災士資格取得を希望される方は、基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座以外の防災士養成研修講座で受験資格を得る必要があります。



## ■応用コース さきもり応用コース

「応用コース さきもり応用コース」を修了すると「三重のさきもり」として認定されます。

カリキュラムは5つの科目とさきもり集中セミナーから構成され、定められた修了要件に従って履修します。

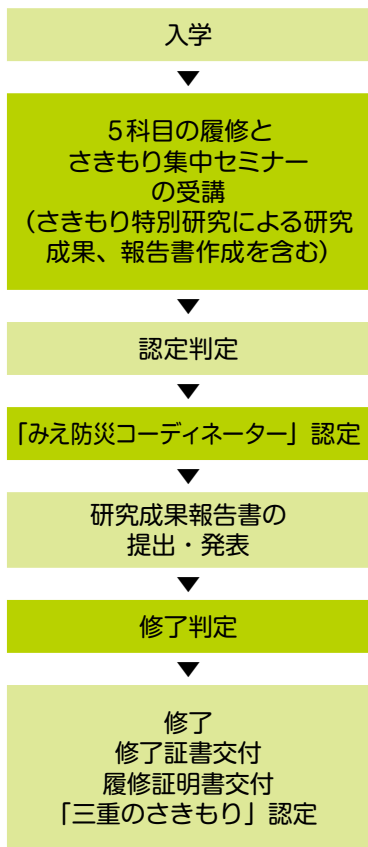
なお、5科目中2科目は「基礎コースみえ防災コーディネーター育成講座」で構成されています。

開講日（予定）	令和4年度 土曜日 13:00～18:00、日曜日 10:30～16:30【全24回】 *さきもり特別研究（ゼミ）は 10:00～12:00
---------	--

### ■応用コース 出願と入学までの スケジュール

■障害等のある入塾志願者との事前相談	令和4年3月22日（火）まで
■出願資格審査申請期間	令和4年3月22日（火）～3月29日（火）
■出願資格審査結果通知	令和4年4月1日（金）以降
■出願期間	令和4年3月27日（日）～4月15日（金）
■入塾選考	令和4年4月23日（土）
■合格者の発表	令和4年4月下旬
■入塾手続き	令和4年5月6日（金）～5月13日（金）

\*資格審査が必要なものは令和4年4月1日（金）～4月15日（金）



■履修期間	原則1年（最大2年まで延長可能）
■定員	10名
■検定料	9,800円
■選考方法	小論文、面接
■学費	75,200円（入学料 28,200円、授業料 47,000円）【予定】
■認定	みえ防災コーディネーター認定は対象の24講座のうち18講座以上を受講すること。 (みえ防災コーディネーター認定者は、みえ防災人材バンクに登録します)
■修了	修了証書は、次の条件を満たした方に対して交付します。 ①5科目を受講して、各科目の70%以上に出席すること。 ②各履修科目について、試験で評価点6以上を取得すること。 ③さきもり集中セミナーを受講すること。
■修了証書	さきもり応用コースを修了すると、修了証書を交付し、「三重のさきもり」として認定します。
■履修証明書	さきもり応用コースを修了すると、学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。
■出願資格	(1) 一般選考 ①学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条第1項に定める大学を卒業した者 ②個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められ令和4年3月31日までに22歳に達する者 (2) 進学選考 ①三重大学「美（うま）し国おこし・三重さきもり塾」入門コースを修了した者 ②「みえ防災塾」みえ防災コーディネーターコース、みえ防災聴講コース、さきもり基礎コースを修了した者

### ■募集要項・出願書類綴の請求方法

三重県・三重大学みえ防災・減災センター  
ホームページからダウンロードしてください。  
<https://www.midimic.jp/>



必須科目	科目名	授業の目的・概要	開催予定日
応用コース さきもり応用コース	基礎コース 防災実践 基礎特論	レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項（災害をもたらす自然現象、三重県の防災・減災、ファシリテーション、避難所の運営）について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。	6月5日(日)
			6月19日(日)
			7月3日(日)
	基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座 防災実践 基礎演習	レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項（気象災害、防災情報の活用、初期対応、被災者支援、防災教育とリスクコミュニケーション、災害時の食事と心のケア、災害に備える地域力）について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し、取り上げたテーマに関する理解を深める。	7月17日(日)
			7月31日(日)
			8月21日(日)
			8月28日(日)
			9月11日(日)
			10月2日(日)
			10月23日(日)
	防災実践 応用特論	レジリエンスの視点を踏まえた地域における自然災害の特徴（ハザードのメカニズムを理解し、防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例を解説する。	6月25日(土)
			10月29日(土)
			11月12日(土)
			12月10日(土)
			1月7日(土)
防災実践 応用演習	レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎を修得する。	7月9日(土)	
		8月20日(土)	
		9月3日(土)	
		10月15日(土)	
		10月29日(土)	
		11月12日(土)	
さきもり 集中セミナー	レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例について集中して解説する。	8月6日(土)	
		11月26日(土)	
		12月17日(土)	
さきもり 特別研究	防災計画あるいは実践に関する研究テーマを受講生自ら設定し、指導教員の指導のもとで、調査研究の方法、研究成果報告書の編集方法や発表方法を学習しながら研究成果報告書の作成に取り組み、レジリエンスの視点からみた防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得する。	6月25日(土)	
		7月9日(土)	
		8月6日(土)	
		8月20日(土)	
		9月3日(土)	
		10月15日(土)	
		10月29日(土)	
		11月12日(土)	
		12月10日(土)	
		12月17日(土)	
1月7日(土)			
1月21日(土)			
2月4日(土)			

		学 習 内 容	講 師 陣 ( 予 定 )
第1回	講座1	三重県の防災・減災対策	三重県防災対策部防災企画・地域支援課職員
	講座2	災害時要配慮者対策	三重大学大学院医学系研究科 磯和勲子
	講座3	みえの防災文化づくり	三重大学大学院工学研究科 川口淳
第2回	講座4	災害をもたらす自然現象(地震・津波・風水害)	三重大学大学院生物資源学研究科 葛葉泰久
	講座5	防災・災害復興における女性の視点	特定非営利活動法人イコールネット仙台 宗片恵美子
	講座6	避難所の環境と健康	国際医療福祉大学大学院保健医療学災害医療分野 石井美恵子
第3回	講座7	ファシリテーション能力の向上	株式会社 Will Staff 長谷川聡子
	講座8	避難所運営ゲーム(HUG)	東京経済大学 吉井博明
第1回	講座9	災害史	三重大学人文学部 塚本明
	講座10	防災教育の現状と展望～教育現場と地域の関わり～	津市立明小学校 川本孝司
	講座11	災害時のこころのケア	伊勢赤十字病院医療技術部臨床心理チーム臨床心理士 中井茉莉
第2回	講座12	防災情報の活用	気象庁 津地方気象台職員
	講座13	ボランティア	特定非営利活動法人 みえ防災市民会議 山本康史
第3回	講座14	津波から命を守るために	常葉大学社会環境学部社会環境学科 阿部郁男
	講座15	気象学、楽しく学べば、怖くない!	三重大学大学院生物資源学研究科 立花義裕
第4回	講座16	普通救命講習	津市消防本部北消防署職員
	講座17	災害医療と応急対応	三重大学医学部附属病院 今井寛
第5回	講座18	被災者支援・図上訓練	地域圏防災・減災研究センター 水木千春
	講座19	市町行政の取り組み	市町職員
第6回	講座20	初動対応・図上訓練	Blog 防災・危機管理トレーニング 日野宗門
	講座21	災害時の食事	管理栄養士 印南京子
	講座22	Myまっぷラン	三重県防災対策部防災企画・地域支援課職員
第7回	講座23	タウンウォッチング	みえ防災・減災センター職員
	講座24	自主防災組織等の先進事例	津市南が丘地区自主防災協議会 中村保親
第1回	特論1-3	ハザードのメカニズム(地震)	名古屋大学 鈴木康弘、名古屋大学 水谷法美、三重大学教育学部 栗原行人
第2回	特論4	企業の対応行動の計画	地域地震情報株式会社 川合一明
第3回	特論5	災害医療体制の計画	三重大学大学院医学系研究科 溝口明
第4回	特論6	現場で使える実践手法(要配慮者)	三重大学大学院医学系研究科 磯和勲子
第5回	特論7-9	東日本大震災後の復興の課題	岩手大学 三宅諭、明治大学 中林一樹、社会福祉法人山田町社会福祉協議会 阿部寛之
第6回	特論10	防災まちづくりの計画	三重大学大学院工学研究科 浅野聡、三重大学教養教育院 大野研、株式会社都市環境研究所 高田裕市
第1回	演習1-3	地震対策の計画	三重大学大学院工学研究科 佐藤公亮、三田紀行
第2回	演習4-6	風水害対策の計画	三重大学大学院生物資源学研究科 酒井俊典、葛葉泰久、飯島慈裕、沼本晋也
第3回	演習7-9	現場で使える実践手法(災害図上訓練)	山口大学 瀧本浩一
第4回	演習10-12	現場で使える実践手法(タウンウォッチング)	東京都立大学 市古太郎
第5回	演習13-14	企業の対応行動の計画(ワークショップ)	地域地震情報株式会社 川合一明
第6回	演習15-16	災害医療体制の計画	三重大学大学院医学系研究科 小林哲、三重大学大学院医学系研究科 丸山一男
第7回	演習17-18	現場で使える実践手法(要配慮者・グループディスカッション)	三重大学大学院医学系研究科 平松万由子、服部由佳、北川亜希子
第8回	演習19-20	防災まちづくりの計画(ワークショップ)	三重大学大学院工学研究科 浅野聡、三重大学教養教育院 大野研、株式会社都市環境研究所 高田裕市
第1回	演習1	ファシリテーションの基本と実践	練馬みどりのまちづくりセンター 浅海義治
	演習2-3	ファシリテーション(ワークショップ)	
第2回	演習4	地域との連携(訓練)	三重大学安全・防災・危機管理室 飯田昌美
	演習5-7	行政機関による災害対策活動	三重県警察本部職員、津市消防本部職員、自衛隊三重地方協力本部職員
第3回	演習8	防災関連制度の変遷	旭合同法律事務所 澤健二
	演習9	東海地方の復興対策の展望	国土交通省中部地方整備局職員
第1回	研究指導合同ゼミ	各指導教員	
第2回	研究指導合同ゼミ		
第3回	研究指導ゼミ(グループ別指導)		
第4回			
第5回			
第6回			
第7-8回	中間報告会		
第9回	研究指導ゼミ(グループ別指導)		
第10回	研究指導ゼミ(グループ別指導)		
第11回	研究指導ゼミ(グループ別指導)		
第12回	研究指導ゼミ(グループ別指導)		
第13回	研究指導ゼミ(グループ別指導)		
第14-15回	研究成果報告会		

は、「専門職防災研修」と合同開催。

は、Zoom オンライン開催。

※講師の都合により、講座日程などが変更される場合があります。

